

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400095		
法人名	有限会社 みどりの風		
事業所名	グループホーム人來田の風 はぎ		
所在地	宮城県仙台市太白区人來田3丁目17-8		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅の中にホームがあり、穏やかに過ごせるような環境作りに努めています。利用者、家族の希望をできるだけ考え喜ばれる支援に力を入れています。地域との密着にも積極的に取り組んでおり、地域の方も気軽に立ち寄り、お茶飲みや相談等できるホーム作りに取り組んでいます。さらには最期まで安心して過ごせるように看取りにも対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目の人來田の風は、閑静な住宅地に位置した平屋のホームである。庭にあづま屋やつくばいが配され、趣が感じられる。利用者と一緒に作った干し柿が吊るされていた。近隣の方々は利用者の散歩時に声を掛け、野菜などをおすそ分けし、お茶飲みに立ち寄り介護相談する等信頼関係が築かれている。職員は毎年理念を見直しており、これを念頭に利用者がどうしたら笑顔で過ごせるかを考え、一人ひとりに配慮した支援を行っている。また、気づきやヒヤリハットを記録・検討、運営推進会議・ケアプラン・各会議録などを回覧し全職員が共有、支援につなげている。24時間の医療との連携体制があり、事業所の看護師が健康管理しており利用者や家族、職員の安心につながっている。ホームを利用した家族や親戚の紹介で入居した方がおり、信頼されていることがうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH人來田の風 ）「 ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、ユニット理念を共有し、常に目にふれるところにも掲示し、常に実践するよう努力している。	毎年全職員で話し合い利用者の状態に合わせた理念を「笑顔いっぱい」「共に笑い、共に支え、共に歩む」とした。毎日の申し送り時に確認し、日々触れ合う中で一緒に笑顔になれるよう、利用者一人ひとりに合わせた声掛けに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月町内へホームの便りを回覧させていただき、夏祭り等にも参加していただく一方、ホームからも地域行事や清掃活動、廃品回収等に参加している。	町内会に加入、総会への出席、地域へ会報『花さんぼ』を回覧、子供会との相互協力等、日常的に地域との交流を図っている。中高生の職場体験の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で報告し、地域で認知症の対応で困っている方の相談に乗りながらいつでも見学していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で地域の方やご家族様の意見を伺い今後のサービスやケアに取り入れ活用している。	町内会長、地域包括職員、民生委員、家族代表、管理者、ケアマネジャー、同法人内グループホームケアマネジャーが参加、年6回開催している。事業所の行事や利用者の状況報告等、情報の交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話等にて市の担当者に相談・報告をし協力関係を築くよう努めている。	市には成年後見人について等必要に応じて相談、必要な報告をしている。利用者職員は保健所による結核検診を年2回行っている。市主催の介護職員研修や集団指導に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関は施錠するが日中は開放している。内部研修や外部研修で身体拘束について学びケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待について内部・外部研修で理解を深め、利用者には束縛しないケアに取り組んでいる。玄関は、日中施錠せず、夜間は防犯のため施錠している。センサーマットは、やむを得ない場合家族の了解を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。また随時ミーティングや会議などでスタッフで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度の利用につなげた入居者があり、制度の学ぶ機会になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より質問や不安な点について利用者、ご家族に伺いできるだけ不安が少ない状態で入居できるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の他、家族会や運営推進会議、面会時なども話しやすい雰囲気であるよう努めている。	運営推進会議、訪問時、電話等で家族の意見や要望を聞き運営に活かしている。希望で交換ノートを活用する家族もいる。第三者委員を町内会長に委嘱、苦情等を相談し、職員間で共有している。意見箱を玄関に設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、リーダー会議などでスタッフからの意見を聞く機会を設け反映させるよう努めている。	管理者は、職員が申し送り時や会議等で、意見を出しやすいように配慮している。事業所で解決出来ない場合は理事長に相談するなど職員の提案を活かすよう努めている。休暇等について検討し、外部研修の参加も業務として位置付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てるように研修への参加、賞与支給など出来るだけ働きやすい環境作りのために努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回は外部研修に参加できるように配慮している。また内部研修などで学ぶ機会を設けている。日々の申し送りの中でもケアについて話し合いながら意図的により良いケアについて考える機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と連携し交換研修を行ったりグループホーム協議会等を通して親睦を図ったり交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活状況等を確認しながら、本人に寄り添い、話を丁寧に伺い、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安なことや困っていることに相談に乗り、家族の気持ちに寄り添いながら安心できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居だけではなく、他のサービスも含めて相談支援を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にもできることは積極的にしていただき共に支えあえるような関係作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ面会に来ていただいたり、行事に参加していただいたり、密に連絡や報告を行い、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの関係が継続できるよういつでも面会していただいたり、電話での連絡を取り次いで支援している。	家族や友人等の面会時にゆったりと過ごせるように配慮している。利用者の家族が大勢訪問した際にも事業所として対応した。姉妹が宿泊したこともある。馴染みの美容室利用の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のより良い関わり合いを大切にし、レクリエーションや行事、会話、ふれあいを通し、職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽にホームに来所できるような関係作りや相談に乗るなど支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉、表情、行動等から、一人ひとりの意向を把握しようと努めている。	利用者一人ひとりの生活歴や好きなこと、性格を把握し、得意なことが発揮できるよう働きかけ、生活に張りを持てるようにそれぞれに支援している。また利用者の様子をカンファレンスで話し合い、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートや本人、家族から話を伺い、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック表、申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関等の意向や意見を聞き、職員間で話し合いの上で介護計画を作成している。	介護計画には、日々楽しく過ごせるように、本人、家族、医師の意向や意見を取り入れている。職員は日常気付いたことを申し送りノートに記録、毎月カンファレンスを行い、3ヶ月毎に見直し、介護計画書を作成し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中で情報を共有し介護記録も活用しながら計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に対して可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、地域の自然の良さを活かしてドライブに行ったり、外食をしたり、安全で心豊かな生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけの医療機関を選択できるようにしている。	協力医療機関をかかりつけ医として月2回の訪問で健康管理を受けることができる。入居前からのかかりつけ医や専門医を受診する場合は家族が付き添う。職員が付き添うこともあり、受診内容を記録し家族と共有している。24時間医療連携体制が整っている。年1回無料で歯科検診を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と情報を共有し、相談や話し合いをし、利用者が適切な看護を受けられるように協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際も家族と医療機関と連携を取り、早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りについての説明を行い、家族の意向等も確認している。その後も状態に応じて医療関係者も含み相談支援をしている。さらには看取りについてのスタッフ向けの内部研修も行っている。	入居時に看取りに関する指針について家族に説明、意向を確認している。重度化した場合は医師から家族に説明、家族の意向を聞き医師・家族・管理者で話し合う。口から栄養を摂取することを重視する介護について説明、文書にて同意を得る。看取りの経験はある。職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会等を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の通報訓練は月1回、避難訓練は年2回以上実施し、意識化している。	火災・風水害・地震対応マニュアルの他に、地域の自主防災マニュアルも備えている。年2回夜間想定を含む避難訓練を地域住民参加で実施している。3月11日には炊き出し訓練を行う。毎月職員は連絡網で通報訓練を実施している。3～4日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、その方に合った言葉使いや声掛けで対応している。	内部で接遇やプライバシー保護について研修を行い、言葉遣いにも配慮している。本人が喜ぶことを重視した支援を行っている。名前は本人が望む呼び方で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場면을意識的に設け、利用者本人の希望や思いが表出できるような雰囲気作りや声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望する生活ができ、その人らしく生活できるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿って身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や手伝いなど出来ることはしていただき、楽しみながら準備や食事ができるよう配慮している。	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材は宅配を利用している。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。メニューに合わせて御膳等の敷物を変え、美味しそうに見える工夫を行っている。特別な行事がある時には赤飯等で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したバランスのよい献立の提供をしている。水分補給に関してはこまめに確認、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助又は声掛けで口腔ケアを対応し、夜間帯は義歯を預かり洗浄し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、失敗が少なくなるように支援している。	排泄チェックを行い排泄パターンを把握、トイレへの誘導や個別対応をしている。利用者の出来ることを見極め自立できるよう支援している。尊厳を尊重した言葉掛けに配慮し、ケアしている。排便の状況により乳酸飲料を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分の摂取、運動等を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただく支援を行っている。	週2～3回午後入浴が基本で、湯温は好みに合わせ支援している。入浴用品は感染予防のため、個人ごとに準備している。入浴しない日には足浴で対応する。拒否する方にはスタッフを替えたり、声掛けを工夫し対応している。季節により菖蒲湯、柚子湯、よもぎ湯等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、日中の過ごし方を工夫したり安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回覧や申し送りを通じて、服薬の内容や変化等を確認し、状況に応じて医師・看護師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活していただき、好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食等の外出支援を行っている。また近所を散歩したり、町内の行事に参加している。希望に合わせて個別外出の支援もしている。	日常的には外気浴や散歩などで気分転換を図っている。毎月行事を企画し、初詣、花見、新緑ドライブ、光のページェント、外食などに出かけている。敬老の旅として秋保のホテルで食事会を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて預かっており、使いたい時はいつでも声掛けしてくださいと伝え、安心できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い環境作りや季節を感じられるような装飾で対応している。	共用空間は大きな窓から自然光が入り明るく、庭の花や植木が鑑賞できる。家具類は居心地良く過ごせるように配置、温・湿度も適切に管理されている。時計、カレンダー、本日の予定内容も見やすく掲示されている。リビングの壁には季節感のある貼り絵が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中でも一人になることができる空間を考慮し椅子やソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みな物や家具などはできるだけ持ち込んでいただくように説明させていただいている。心地よい空間作りに配慮している。	居室は洗面台付きや、広さが異なる3タイプがある。利用者は使い慣れた家具類を持ち込み、居心地良く、穏やかに過ごせるよう配慮している。本人の趣味を生かした作品など室内外に展示している。出来る利用者との掃除を行い快適な空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物、手すりなどを利用し、安全かつ自立した生活に向け工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400095		
法人名	有限会社 みどりの風		
事業所名	グループホーム人來田の風 ゆず		
所在地	宮城県仙台市太白区人來田3丁目17-8		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな閑静な住宅街に立地している。利用者、家族の希望をできるだけ考え喜ばれる支援に力を入れている。関係者すべての方が安心して生活できるように力を入れている。地域の方も気軽に立ち寄り、お茶飲みや相談等できるホーム作りに取り組んでいる。近隣の方も資格がなくても働きに来ていただけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目の人來田の風は、閑静な住宅地に位置した平屋のホームである。庭にあづま屋やつくばいが配され、趣が感じられる。利用者と一緒に作った干し柿が吊るされていた。近隣の方々は利用者の散歩時に声を掛け、野菜などをおすそ分けし、お茶飲みに立ち寄り介護相談する等信頼関係が築かれている。職員は毎年理念を見直しており、これを念頭に利用者がどうしたら笑顔で過ごせるかを考え、一人ひとりに配慮した支援を行っている。また、気づきやヒヤリハットを記録・検討、運営推進会議・ケアプラン・各会議録などを回覧し全職員が共有、支援につなげている。24時間の医療との連携体制があり、事業所の看護師が健康管理しており利用者や家族、職員の安心につながっている。ホームを利用した家族や親戚の紹介で入居した方がおり、信頼されていることがうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH人來田の風 ）「 ユニット名 ゆず 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回、各ユニットのスタッフが個々に理念を考え、話し合いで決定し、ユニットの壁に張り出し、常に理念を念頭に置き実践できるように努力している。	毎年全職員で話し合い利用者の状態に合わせた理念を「笑顔いっぱい」「共に笑い、共に支え、共に歩む」とした。毎日の申し送り時に確認し、日々触れ合う中で一緒に笑顔になれるよう、利用者一人ひとりに合わせた声掛けに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、毎月町内会の回覧板に機関誌を載せている。また日頃よりホームに来ていただき、ホームの行事にも参加していただいている。ホーム側も地域行事等に積極的に参加している。	町内会に加入、総会への出席、地域へ会報『花さんぼ』を回覧、子供会との相互協力等、日常的に地域との交流を図っている。中高生の職場体験の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段より運営推進会議等にて報告し、また地域の中で認知症の対応に困っている人たちの相談にのり、訪問しやすいホームづくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議においてホームの取り組みや行事内容、利用者の状況等を報告し、参加者より意見をいただき取り組みに活かしている。	町内会長、地域包括職員、民生委員、家族代表、管理者、ケアマネジャー、同法人内グループホームケアマネジャーが参加、年6回開催している。事業所の行事や利用者の状況報告等、情報の交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話にて市の担当者に相談をしたり、確認を行っている。事故などの際は書面にて報告している。	市には成年後見人について等必要に応じて相談、必要な報告をしている。利用者と職員は保健所による結核検診を年2回行っている。市主催の介護職員研修や集団指導に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で研修を行い、スタッフ一人一人が身体拘束について理解した上でケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待について内部・外部研修で理解を深め、利用者には束縛しないケアに取り組んでいる。玄関は、日中施錠せず、夜間は防犯のため施錠している。センサーマットは、やむを得ない場合家族の了解を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士、お互いのケアに関心を持ち、ホーム内で研修を行い、スタッフ一人一人が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度利用につなげたケースもあり、成年後見人との連携の中で職員全体が学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心に契約書を家族と読み合わせ細かく説明している。介護保険制度改正時等も家族に説明した上で疑問点も確認し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に出席してもらい意見をいただいている。また、ご意見箱の設置もしている。	運営推進会議、訪問時、電話等で家族の意見や要望を聞き運営に活かしている。希望で交換ノートを活用する家族もいる。第三者委員を町内会長に委嘱、苦情等を相談し、職員間で共有している。意見箱を玄関に設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の全体会議やリーダー会議の中で職員の意見や提案を反映させている。	管理者は、職員が申し送り時や会議等で、意見を出しやすいように配慮している。事業所で解決出来ない場合は理事長に相談するなど職員の提案を活かすよう努めている。休暇等について検討し、外部研修の参加も業務として位置付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てるよう意見を集約しながら環境設備を整えたり、賞与支給や就業規則を見直し、働きやすい環境を日々探求して取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っており、外部研修にも年に1度は全員が参加できるよう配慮している。また毎日の申し送りの中でも最善のケアについて話し合いながら意図的にケアについて考える機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に所属している。また他事業所との交換研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優先順位を考え、本人、家族の一番困っているところをポイントとして対応、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時に困っていることや要望を伺い、入居前から信頼関係を築くことができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへの入居だけではなく、家族や利用者の気持ちを優先にし、他のサービスも含めて相談支援を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット理念にも掲げているように、それぞれが役割を持ち、暮らしを共にしているという視点で支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には密に連絡や報告を行い、できる部分は協力していただき、共に利用者を支えていく一員として支援していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもホームに面会に来られるように面会しやすい環境づくりに努め、面会時はゆっくりと面会できるようセッティングしている。	家族や友人等の面会時にゆったりと過ごせるように配慮している。利用者の家族が大勢訪問した際にも事業所として対応した。姉妹が宿泊したこともある。馴染みの美容室利用の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の役割を作り、お互いが助け合える関係作りをしている。また利用者同士で声がけしやすい雰囲気を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もホームに来て下さったり、要望に応じて相談支援を行っている。他の親戚の入居相談を受け、実際に入居されたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを傾聴し、家族とも相談し、職員間でもカンファレンスを行っている。	利用者一人ひとりの生活歴や好きなこと、性格を把握し、得意なことが発揮できるよう働きかけ、生活に張りがあるようにそれぞれに支援している。また利用者の様子をカンファレンスで話し合い、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴等を情報シートや普段の会話から把握するよう努めている。本人の喜ぶことを第一に考え、心配なことを取り除けるように声掛けや居室空間を工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック表等で毎日の様子を記録し、朝夕の申し送りにて一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関等の意向や意見を聞き、職員間で話し合いの上で介護計画を作成している。	介護計画には、日々楽しく過ごせるように、本人、家族、医師の意向や意見を取り入れている。職員は日常気付いたことを申し送りノートに記録、毎月カンファレンスを行い、3ヶ月毎に見直し、介護計画書を作成し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には状況を詳しく記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に対して可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にドライブに行ったり、外食している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に沿った医療機関と密に対応している。	協力医療機関をかかりつけ医として月2回の訪問で健康管理を受けることができる。入居前からのかかりつけ医や専門医を受診する場合は家族が付き添う。職員が付き添うこともあり、受診内容を記録し家族と共有している。24時間医療連携体制が整っている。年1回無料で歯科検診を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師により週2回健康チェックを受け、日々の様子や状態報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはお見舞いに行ったり、早期退院に向けて家族、病院職員、かかりつけ医等と連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りについての説明を行い、家族の意向等も確認している。その後も状態に応じて医療関係者も含み相談支援をしている。さらには看取りについてのスタッフ向けの内部研修も行っている。	入居時に看取りに関する指針について家族に説明、意向を確認している。重度化した場合は医師から家族に説明、家族の意向を聞き医師・家族・管理者で話し合う。口から栄養を摂取することを重視する介護について説明、文書にて同意を得る。看取りの経験はある。職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年、全スタッフを対象に救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを参考に避難訓練を行い、地域の方も参加していただいている。地域の避難訓練マニュアルも常備している。	火災・風水害・地震対応マニュアルの他に、地域の自主防災マニュアルも備えている。年2回夜間想定を含む避難訓練を地域住民参加で実施している。3月11日には炊き出し訓練を行う。毎月職員は連絡網で通報訓練を実施している。3～4日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別的にその方に合った声掛けを行い、どのような言葉掛けが適切かを話し合い対応している。	内部で接遇やプライバシー保護について研修を行い、言葉遣いにも配慮している。本人が喜ぶことを重視した支援を行っている。名前は本人が望む呼び方で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう問い掛けや言葉掛けを普段の会話から大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望を聞きながら好きな事に取り組んでいただき、その人らしく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を着ていただいたり、居室に鏡や化粧品を置いて好きなように身だしなみを整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に利用者にもできる範囲で準備や片付けを手伝っていただいている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材は宅配を利用している。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。メニューに合わせて御膳等の敷物を変え、美味しそうに見える工夫を行っている。特別な行事がある時には赤飯等で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表を用い毎日個別に記録され、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、定期的に訪問歯科を利用しアドバイスももらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェックを行い排泄パターンを把握、トイレへの誘導や個別対応をしている。利用者の出来ることを見極め自立できるよう支援している。尊厳を尊重した言葉掛けに配慮し、ケアしている。排便の状況により乳酸飲料を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、乳製品の摂取、食事の工夫等を行い便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴できるように本人のタイミングに合わせて、できるだけ気持ちよく入浴できるように支援している。	週2～3回午後の入浴が基本で、湯温は好みに合わせ支援している。入浴用品は感染予防のため、個人ごとに準備している。入浴しない日には足浴で対応する。拒否する方にはスタッフを替えたり、声掛けを工夫し対応している。季節により菖蒲湯、柚子湯、よもぎ湯等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養の時間は個々のペースに合わせて設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回覧や申し送りを通じて、服薬の内容や変化等を確認し、状況に応じて医師・看護師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った役割を持っていただき、共に楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て外出したり、ドライブや外食等の外出支援を行っている。また近所を散歩したり、町内の行事に参加している。個別外出の支援もしている。	日常的には外気浴や散歩などで気分転換を図っている。毎月行事を企画し、初詣、花見、新緑ドライブ、光のページェント、外食などに出かけている。敬老の旅として秋保のホテルで食事会を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて預かっており、使いたい時はいつでも声掛けしてくださいと伝え、安心してできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはスタッフが手伝い、手紙やハガキは自由にやり取りしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を1日2回測定し、室内空間の管理をしている。また季節を感じられるような装飾を行っている。	共用空間は大きな窓から自然光が入り明るく、庭の花や植木が鑑賞できる。家具類は居心地良く過ごせるように配置、温・湿度も適切に管理されている。時計、カレンダー、本日の予定内容も見やすく掲示されている。リビングの壁には季節感のある貼り絵が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、一人ひとりが過ごしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参してもらい、本人の使いやすいように配置して対応している。	居室は洗面台付きや、広さが異なる3タイプがある。利用者は使い慣れた家具類を持ち込み、居心地良く、穏やかに過ごせるよう配慮している。本人の趣味を生かした作品など室内外に展示している。出来る利用者と掃除を行い快適な空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造であり、各居室も本人が安全に自立した生活が送れるように家具やベットの配置等環境整備を工夫している。		